

もっと人の中に  
さらに街なかへ

さくら工房



職業指導員

澤口 和也 さん  
Kazuya Sawaguchi

所長

中原 智恵 さん  
Tomoe Nakahara



ブランド化をめざすさくら工房のものづくり

地域の人に見てもらいたい

貝がら節で有名な気高町浜村の温泉街に、ハンディキャップを持つ人たちの支援を行う福祉サービス事業所「さくら工房」があります。

さくら工房は、平成16年7月に小規模作業所としてスタート。当時は地区の社会福祉協議会の2階を間借りして活動していました。ハンディキャップを持つ人たちの働く姿を地域の人や観光客に見ていただき、障がい者への理解を広げてもらいたいとの思い

から、平成21年4月に地域の代表的な観光施設「浜村温泉館」の一角に拠点を移しました。そして、「就労継続支援B型事業所」の認可を取得し活動を展開しています。

当初から、焼き菓子や手芸品の製作販売など、いろいろなものづくりにチャレンジ。とりわけ、使用済み食用油から軽油代替燃料を精製するバイオディーゼル燃料は、事業の柱として成長しました。

バイオディーゼル燃料は、使用済みの食用油から約85%の燃料が精製でき、燃焼して

CO<sub>2</sub>を排出しても大気中のCO<sub>2</sub>の総量を増やさないため、地球温暖化抑制に効果のある環境にやさしい燃料であるとされています。

「前からエコな人間でした」と微笑む所長の中原さんは、事業に掛ける意気込みを語ります。

売れるものを作らなければ

今春、就職した指導員の澤口さんは、以前から福祉に関心があり、地元のさくら工房が求人募集をしていることを知り応募しました。

「以前は、環境問題にはあまり関心はありませんでしたが、ここで働くようになって、今では、理解してくださるお客様に感謝し、法人の考え方を尊敬しています」と、澤口さんはこれまでを振り返ります。

現在、さくら工房では、町内で回収した食用油からバイオディーゼル燃料を精製し、町内の契約車両2台に給油をしています。バイオディーゼル燃料は軽油のように、軽油取引税などの税金が課税されないため、安価で販売でき、軽油との差額がさくら工房の重要な収

《1月の番組ガイド》

.....鳥取市行政番組.....

『こんにちは鳥取市です』【放送】毎週金・土

鳥取市の施策や事業の取り組み状況、各種行事、お知らせを紹介します。

【特集】

- ▷鳥取市新春健康マラソン&成人式
- ▷消防出初め式
- ▷第9次鳥取市総合計画
- ▷鳥取市観光大学



昨年の「消防出初め式」

静止画文字情報

『鳥取市からのお知らせ』【放送】毎週日・月・水・木



イベント・募集・相談などの各種お知らせを、文字画面と音声でご案内します。

いなばぴよんぴよんネット  
.....自主制作番組.....

農業番組『いなばアグリタイム』【放送】毎週水・木

JA 鳥取いなばの今年の取り組みや、女性会、生活改善実行グループなどに、今年にける抱負をお聞きます。

地域情報番組『とっとりウオーキング』【放送】毎週日・月

とんどや書初め、七草がゆなど各地の正月行事の話題や、公民館のサークル活動の様子などを紹介します。

生活情報番組『ぴよんぴよんワイド』【放送】毎週火

子育てや健康をテーマに、暮らしに役立つ情報や話題をお届けします。

手話番組『手話でコミュニケーション』【放送】毎週日・月

ニュースや話題、行事、お知らせを手話や字幕で紹介します。

鳥取市コミュニティデータ放送が始まりました！

鳥取市の行政情報や地域情報など生活に密着した情報が、地デジテレビやSTBなどのリモコンを操作することで、ご家庭のテレビで手軽にご覧いただける「鳥取市コミュニティデータ放送」がスタートしました。操作方法など詳しくは、ご加入のケーブルテレビ局にお問い合わせください。

情報をお寄せください！

いなばぴよんぴよんネット ☎ 0857-22-6111

※放送予定は予告なく変更することがあります。  
番組の放送時間は、ホームページまたはデジタル放送の電子番組表 (EPG) をご覧ください。  
<http://www.inabapyonpyon.net>



品質管理に努めるバイオディーゼル燃料の精製作業

入となります。その分、澤口さんや、精製にあたるスタッフには品質に対する責任があり、複数回行う精製工程に余念がありません。  
「売れるものを作らなければ生き残れない。それは一般の会社と同じです」と澤口さんは厳しい眼差しを覗かせます。  
さくら工房で

は、気高、鹿野、青谷町の各総合支所と酒津、宝木、瑞穂、勝谷、逢坂の各地区公民館に食用油の回収場所を設置し、みなさんに持ち込みの協力をお願いしています。  
また、中原さんと澤口さんは、バイオディーゼル燃料によって地域がつながる「ECOタウンけたか計画」を描いています。それは、バイオディーゼル燃料で走る送迎バスを利用した幼稚園児が、小学生・中学生になって、今度は食用油の回収に一役買う、そんな大きな輪の中で障

がいを持った人が働くまち、障がいのある人もまちおこしができるしくみづくりです。  
**人と比べるのではなく**  
「昨年、試験的に地元の農家と提携し、らっきょうの植え付けを行ないました。猛暑といわれながらも、早朝の涼しい時間帯に行ったら、みんなが楽しそうに作業に取り組んでくれました」と、2人は、農業と福祉の連携にも意欲を見せます。  
現在、さくら工房に通う利用者は14人。障がいや病気の症状を抱えながらもみんな元

気ががんばっています。  
「利用者は、能力に個人差もあり、また障がい故に持っている能力を充分発揮できないかもしれません。しかし、その能力を人と比べるのではなく、昨日の自分と今日の自分を比べ、昨日できなかったことがどうしたらできるようになるのかを考え努力することが大切。そうすることで、小さな能力が何倍にも発揮される、そんな場所でありたいです」と中原さんは、やさしさときびしさでの両方で利用者を見守り続けます。